

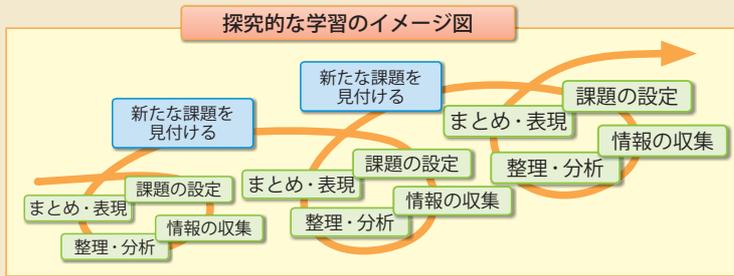
総合的な学習の時間

the Period for Integrated Studies

総合的な学習の時間は、各教科等で育まれた資質・能力を働かせ、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習を行う時間です。答えや解決方法が1つに定まらない探究課題に主体的・協働的に取り組むことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく児童生徒の姿が望まれます。

そのためには、各学校の教育目標や、地域の実態を踏まえながら、児童生徒が実社会や実生活の中から見いだした疑問や関心に基づいて自ら課題を立て、その解決に向けて情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する活動を発展的に繰り返すことができる探究的な学習の充実を図ることが大切です。

【総合的な学習の時間のページで使用されている用語解説】

探究課題	国際理解、環境、福祉、地域の人々の暮らし、伝統と文化等、従来「学習対象」として説明されてきたもの。学習指導要領の改訂において「探究」を重視するために言い換えられた。
探究的な学習	<p>問題解決が発展的に繰り返されていく一連の活動であり、物事の本質を探り見極めようとする知的営み。</p> <p>目標の実現のために各学校が設定した探究課題の解決に向けて「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」といった学習活動を発展的に繰り返していくもの。(下図参照)</p>  <p>The diagram, titled '探究的な学習のイメージ図' (Image of Inquiry Learning), illustrates a cyclical process. It features a central orange box with the title. Below it, a series of blue and green boxes are connected by orange arrows in a clockwise cycle. The steps are: '新たな課題を見付ける' (Finding a new topic), '課題の設定' (Setting the topic), '情報の収集' (Collecting information), '整理・分析' (Organizing and analyzing), and 'まとめ・表現' (Summarizing and expressing). The cycle repeats, with arrows indicating a continuous, iterative process.</p>
課題の設定	日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて自ら課題を見つけ、解決への見通しをもつ。
情報の収集	課題の解決に向けて必要な情報を集める。
整理・分析	収集した情報を比較・分類したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら課題の解決に取り組む。
まとめ・表現	明らかになった考えや意見などをまとめたり、表現したりするなどしてこれまでの取組を振り返り、新たな課題を見つけ、更なる課題の解決を始める。

総合的な学習の時間

1 単元のつくり方

総合的な学習の時間の単元は、第1章の2で示すBパターンの構想が多くなります。「つかむ」過程では、探究課題との出会いを基に単元の課題を設定します。「追究する」過程では、4つの探究のプロセス（課題の設定—情報の収集—整理・分析—まとめ・表現）を発展的に繰り返すことで、単元の課題の解決に向けた活動を進めます。最後の「まとめる」過程では、「つかむ」過程で設定した単元の課題を基に取組をまとめ、自分たちの変容を振り返ります。

答えが簡単には出ない大きな課題の解決に取り組んでいく探究的な学習では、子供たちの思い等、様々な状況により、計画を変更することもあります。主体的な学習にするためにも、途中での変更ができるような柔軟な単元計画とすることが大切です。

過程と基本的な学習活動 子供の意識・思考

1 探究課題と出会い、単元の課題を把握する。

- ①探究課題と出会う。
- ◇共通体験活動を行う。
 - ◇専門家の話を聞く。 など



- ・○○はおもしろそうだな。
- ・△△は初めて知った。すごいな。
- ・□□みたいになりたいな。

- ②単元の課題を把握する。
- ◇気付きや疑問を出し合う。
 - ◇理想と現実を比べる。 など



- ・もっと○○してみたいな。
- ・△△を何とかする方法はないかな。
- ・□□の役に立ちたいな。

【単元の課題】
探究課題との出会いから導き出された単元を通して探究する内容

- ③追究の見通しをもつ。
- ◇どのようなことに取り組んでいくか、解決に向けた予想や仮説を立てる。 など



- ・○○すれば△△できるかもしれない。
- ・□月までには解決できるといいな。
- ・最後は◇◇ができるといいな。

2 単元の課題に基づき、個人・グループ等での課題を設定し、追究する。

- ①課題の設定
- ◇追究の見通しを基に、自らが取り組む課題（個別課題）を設定する。

【課題】



- ・○○の原因を調べてみよう。
- ・なぜ△△のようになるのだろう。
- ・□□が分かれば解決できるかも。

◇何をどのように追究するか、具体的な見通しをもつ。

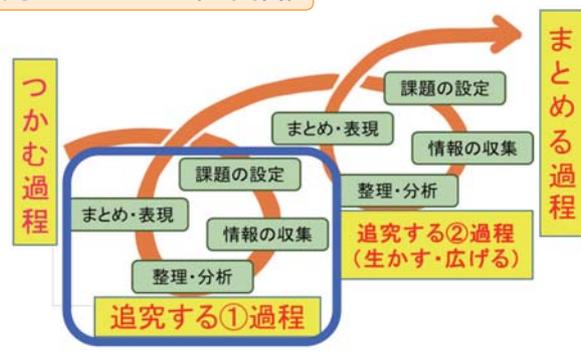
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のポイント

- 共通の体験活動を設定したり、専門家を招いたりするなど、探究課題と出会う場面を設定し、今の考えとの「ずれ」や「隔たり」、「憧れ」や「可能性」について感想を共有させる。

- 答えが1つではなく簡単には解決できない課題になるように、複数の活動を想定した大きなスケールの単元の課題とする。
〈大きなスケールの単元の課題の設定例〉
- ・「～名人（博士）になろう」
- ・「地域の～を世界に広げよう」

- 単元の課題の達成に向けて、様々な可能性を想定させる。
- 教師が活動内容や学習の流れをすべて決めず、子供の思いを大切に、子供と共に計画を立てる。

探究のサイクル（1回目）



- 取り組んでいく課題や解決方法を整理する際には、考えるための技法を活用させる。 **P162を参照**
- 課題を解決した姿（ゴールイメージ）を出し合い、見通しをもたせる。

追究する①

②情報の収集

◇設定した課題の解決に向けた見通しを基に必要な情報を収集する。



- ・インタビューした内容を文章にして残そう。
- ・インターネットで最新情報を集めよう。
- ・必要な情報を〇〇をやって集めよう。

③整理・分析

◇収集した情報や考えを整理・分析する。



- ・自分は〇〇だけど、友達はどうだろう。
- ・△△の原因は□□だからかも。
- ・◇◇と●●はつながっているんだ。

④まとめ・表現

◇設定した課題に対する取組をまとめたり、実践したりし、新たな課題につなげる。



- ・分かったことを〇〇に伝えたい。
- ・△△だから□□した方がよい。
- ・もっと◆◆してみたい。

- 他者からの多様な情報収集ができるように、観察、実験、見学、調査、追体験などを必要に応じて取り入れる。

- 比較・分類による整理やそれぞれの関連付けによる分析など、情報を活用して思考できる活動を適切に取り入れる。
- 収集した情報を可視化・操作化するための「考えるための技法」を意識的に取り入れる。

P162を参照

- 相手を意識するとともに、目的を明確にして、まとめや表現、実践方法を考えさせる。
- 設定した課題に対する実現状況を振り返らせることで、新たな課題につなげられるようにする。

追究する②

【生かす・広げる】

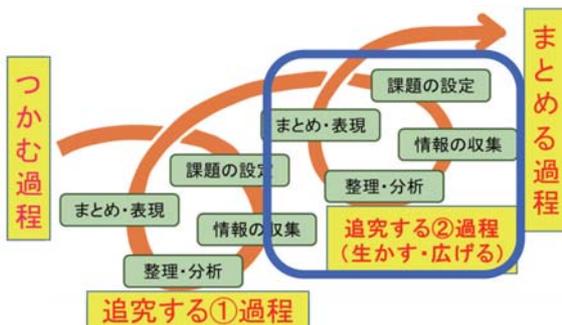
3 新たな課題を見だし、継続して追究する。

【課題】

- ①課題の設定
分かってきたことを基に、〇〇してみたい。
- ②情報の収集
△△するために足りない部分をもっと調べてみよう。
- ③整理・分析
□□について、より効果的な方法は、こうすればいいのか。
- ④まとめ・表現
自分たちの活動をもっと広げていけるといいな。



探究のサイクル（2回目以降）



- 1回目の探究のサイクルより発展的な課題となるように、**活動の広がり**を意識して新たな課題を見いださせる。

〈例〉自分→学級→学校→地域（空間的広がり）
過去→現在→未来（時間的広がり）

※2回目以降は、1回目の学びを発信する課題になることが多い。
（ポスター、チラシ、イベント参加等）

まとめる

4 単元全体の学習を振り返る。

◇単元全体の学習を振り返り、自分の変化や成長を見つめ直す。



- ・学習をする前は〇〇だったけれど、今の自分は△△に変わってきたよ。
- ・この学習を通して、□□の力が身に付いたと思う。
- ・この学習で学んだことは、◇◇の中で生かしていけるかもしれない。
- ・次は●●についてやってみたいな。

- 蓄積しておいた学習記録や他者評価等で自分の成長を振り返る場面を設定する。
- 達成感や自信をもたせ、自分のよさや可能性に気付かせ、自らの生活や行動について見直す機会とする。

総合的な学習の時間

小学校 単元例 (第5学年)

単元「目指せ、住みよい〇〇市～身近な環境に目を向けて～」(全30時間計画)

つかむ過程
(4時間)

追究する①過程
(13時間)

1 探究課題と出会い、単元の課題を把握する

①探究課題と出会う。

- ◇校区内でごみがたくさん落ちている場所や、汚れている場所を予想する。

毎日通る道路は、汚れてないな。学校の周りは、いつもきれいだと思うけどな。



- ◇実際に調査に出掛け、地域のごみ等の環境に関する実態を調べる。

自分たちの地域はきれいだと思っていただけでも、ごみが多かったよ。



②単元の課題を把握する。

- ◇ゲストティーチャーから話を聞き、市のごみ問題について話し合う。

ごみの出し方や量など、問題が多いことが分かったよ。



【単元の課題】

ごみ問題ゼロを実現させ、住みよい〇〇市にしよう
～ごみ問題ゼロへの道～

③追究の見通しをもつ。

- ◇市のごみ問題を整理する。

【ごみ問題】

・ごみの量 ・ごみの分別 ・ポイ捨て

自分たちが住む市には様々な問題があり、ごみ問題ゼロに向けて、まずは市の取組を調べていこう。



2 単元の課題に基づき、個人・グループ等での課題を設定し、追究する。

①課題の設定

- ◇ごみ問題が解決した姿を考え、取り組むべき課題についてグループで話し合う。

【課題】(グループ例)

自分たちの地域が抱える「ごみの量」の問題の現状を知ろう。

ごみの量の現状を知るために、自分たちの地域や他の地域の現状や取組を調べたいな。インタビューや現地調査ができるな。



②情報の収集

- ◇現地調査や家庭でのインタビューを行い、市の取組を調べる。
- ◇尾瀬に行き、環境を守るための取組について調査する。

ごみ収集や処理などについて学習したけれども、自分たちができることも調べたいな。



③整理・分析

- ◇市や他の地域の現状や取組について調べたことを比較し、よりよい取組を話し合う。



自分たちの地域と他の地域とを比べるとごみの量を減らすために大切なことが分かってきたな。

④まとめ・表現

- ◇ごみ問題を解決するための取組をまとめ、発表をする。
- ◇単元の課題が達成できたかを自己評価する。

実際に自分たちや地域の人々が取り組まなければごみ問題ゼロにはならないと思うな。



【目標】

地域の環境についての現状や取組を調べ、地域の環境を守る人々の思いを知り、環境をよくする取組を考え、実践することを通して、地域への愛着と地域の一員として貢献する態度を養う。

追究する②【生かす・広げる】過程 (12時間)

3 新たな課題を見だし、継続して追究する。

①課題の設定

◇これまでの学習を基にごみ問題ゼロを実現させるために、地域の方へ発信する方法を話し合う。

【課題】(グループ例)

「ごみ問題ゼロを広めようプロジェクト」を実現するために、何をどのように発信したらよいのだろう。



自分たちの調べたことや考えた取組などをもっと多くの人に知ってもらいたいな。

②情報の収集

◇自分たちの取組を広めるために調査をしたりインタビューをしたりする。

市の方もごみの出し方などいろいろな方法でみんなに分かりやすく伝えているな。参考にしたいから聞いてみよう。



③整理・分析

◇自分たちの取組のよさ・効果や実現可能性を話し合う。



自分たちが考えた取組は、ポスターやチラシにしてみんなに伝えるようにしたいな。

④まとめ・表現

◇「ごみ問題ゼロを広めようプロジェクト」における自分たちの取組を実践したり発信したりする。

地域の人たちにたくさん実践してもらえてうれしいな。



まとめる過程 (1時間)

4 単元全体の学習を振り返る。

◇これまでの学習を、ファイルや掲示物等から振り返り、頑張ったことや成果を話し合う。

ごみ問題について調べただけではなく、地域の人たちに回覧板で伝えられたのがよかったね。



◇「つかむ」過程で自分たちが考えていたことと現在を比べ、考えが変わったことや成長したことをワークシートにまとめる。

「つかむ」過程における子供の意識



ごみの量は意外に多かった。何でだろう。



私たちの地域のごみ問題ゼロを達成しよう。

「まとめる」過程における子供の意識



ごみの量を減らすことは、自分たちの身近な環境をよくすることにつながるな。



思っていたよりごみ問題ゼロを達成するのは難しいことが分かった。でも、地域の人たちと協力してできて楽しかった。前より、〇〇市が好きになった。

総合的な学習の時間

中学校 単元の例 (第2学年)

単元「地域のためにできること～これからの自分と地域に必要なこと～」(全45時間計画)

つかむ過程
(4時間)

追究する①過程
(23時間)

1 探究課題と出会い、単元の課題を把握する

①探究課題と出会う。

◇地域の偉人である高山長五郎の生き方を知る。

長五郎はお金のためでなく、地域のために働いたのはなぜだろう。



◇「高山社」に行き、話を聞く。

地域のためにたくさんの研究をしたんだな。



②単元の課題を把握する。

◇地域と人を大切にされた高山長五郎の生き方を基に、自分たちの地域の問題点について話し合う。

長五郎のように地域貢献できる人になりたいな。



【単元の課題】

自分たちの地域の問題点を捉え、地域のためにできることをしよう。

③追究の見通しをもつ。

◇地域の問題点を解決するために必要なことを考える。

【地域の問題】

・高齢化 ・少子化 ・労働力
・経済 など

地域の問題を整理すると分かりやすくなるな。



2 単元の課題に基づき、個人・グループ等での課題を設定し、追究する。

①課題の設定

◇予想される地域の問題点を基に、個人の課題を考える。

【課題】(個人例)

高齢化に向けて地域の飲食店ととっている対策を伝えるには、どうしたらよいだろう。

地域には高齢化という問題があるな。どうすれば高齢化に対応できるかを考えていきたいな。



②情報の収集

◇職業体験の中で、働いている人に地域の問題点について質問する。



飲食店では、メニューを見やすくしたり段差をなくしたりして、高齢化の対策をしているのだな。

③整理・分析

◇職業体験での調査で得た情報を基に、地域の問題点の解決策について話し合う。

自分が行っていない事業所でも、高齢化の対策をしているな。



④まとめ・表現

◇地域に関わる問題点について提言書としてまとめ、提出する。

◇市役所の方から提言書の評価とポイントを聞き、さらにより提言書について考える。

アドバイスを聞き、提言書では足りないところが多いので、もう一度考えなければいけないな。



【目標】

地域の現状や問題点を捉え、それを解決するための具体策を考えることを通して、将来に向けてこれからの自分の生き方や地域について見つめ直すことができるようにする。

追究する②【生かす・広げる】過程 (16時間)

3 新たな課題を見だし、継続して追究する。

①課題の設定

◇提言書に必要なことを話し合い、新たな課題を明らかにする。

【課題】(個人例)

地域が高齢者と若者の集える場所になるには、どのような提言書にすればよいだろう。

中学生として、実現可能な提案を考えていきたいな。



②情報の収集

◇関係機関などの方から意見を聞いたり、事業所に再度インタビューをしたりする。

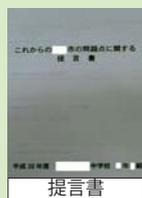


リハビリ施設の職員にお年寄りが過ごしやすい場所についてのアンケートを採るとよいな。

③整理・分析

◇前回の提言書と比較したり、地域の方からのポイントに照らしたりして提言書を見直す。

様々な施設にはボランティアの方がいるので、中学生ボランティアの活用について提案していきたいな。



④まとめ・表現

◇新提言書を作成し、市役所の方から評価をもらう。
◇地域に自分たちの提言を発信する。

自分たちの視点から提言書ができたな。この中で自分たちでもできることを今後も続けていきたいな。



まとめる過程 (2時間)

4 単元全体の学習を振り返る。

◇今までの活動をグループごとに振り返り、それぞれの取組を基に地域への思いなどをまとめる。

体験した職場では、ただ仕事をするだけでなく、地域や未来のことも考えていることが分かった。



◇「つかむ」過程で自分たちが考えていたことと現在を比べ、考えが変わったことや成長したことを作文や図にまとめる。

「つかむ」過程における子供の意識



自分たちにできる地域貢献ってなんだろう。



地域には様々な問題がある。将来が心配だな。

「まとめる」過程における子供の意識



地域には、地域のために様々な取組をしている人がいると知った。自分も〇〇さんのように地域のために働ける人になりたい。



地域の問題を解決するのは簡単ではなく、時間がかかることが分かった。これからも地域のためになる取組を考え続けていきたい。

総合的な学習の時間

※「2 単位時間について」「3 教科書の活用について」の項は総合的な学習の時間の中では示していません。

4 学習活動を行う際に生じる困難さに応じた指導の工夫【例】

困難さ	指導の工夫
調べたり、まとめたりすることが難しい場合	・調べ方やまとめ方の例を具体的に示し、それらを選択したり、参考にしたりできるようにする。
学習に対する関心を広げることが難しい場合	・児童生徒の関心あることを中心に置き、学習内容との関連を示すようにする。
集めた情報を自らの考えにしたがって扱うことが難しい場合	・様々な情報を選ぶ視点を具体的に示したり、情報を可視化し操作化できるように示したりする。
自らの学習を振り返ることが難しい場合	・学習記録（ノート、ワークシートなど）を整理させ、それを活用して、学習前、学習中、学習後の自分を比較しながら振り返らせる。
落ち着いて人前で話すことが難しい場合	・人前で話すことへの不安を軽減させるために、発表内容を紙面に整理させ、紙面を見ながら発表できるようにする。

「困難さを補う」視点と併せて、「得意なことを生かす」という視点をもって指導の工夫をしましょう。



子供の困り感に寄り添い、学習への安心感を与えられる指導を心掛けましょう。



5 情報活用能力の育成

総合的な学習の時間における情報とは…
探究課題の解決に必要な教科等の枠組みを超えた幅広い知識

基本的な操作〈例〉

- 情報の収集・記録
⇒インターネットなど、多様な手段による情報収集
⇒デジタルカメラなどを活用した記録
- 情報の整理
⇒必要な情報を整理（数値情報をグラフ化など）
⇒プレゼンテーションソフトウェアによる資料作成
- 情報の発信
⇒インターネット等を活用した発信

情報モラル・セキュリティ

- ・情報を扱う際に、自分や他者の権利を考えさせる場面を設定する。
- ・情報が社会に与える影響を考え、責任を持って情報を発信できるようにさせる。など

情報の収集

- ・直接体験（見学やインタビュー）や図書などから必要な情報を得る。
- ・手書きの記録と併せて、情報を記録する機器を用いて情報収集する。

問題解決における情報活用

情報の整理・比較

- ・入手した情報の重要性や信頼性を吟味し比較・分類する。
- ・複数の情報を関連付けたり組み合わせたりして新しい情報をつくる。

情報の発信・伝達

- ・探究的な学習の目的に応じて、身近な人に発表したり、広く発信したりさせる。
- ・発信する情報の受け手の状況を推察して、発信する情報を確認する。

プログラミング

（小学校における取扱い）

プログラミングを体験しながらそのよさや課題に気づき、現在や将来の自分の生活や生き方とつなげて考えられるように、探究的な学習の過程に適切に位置付ける。

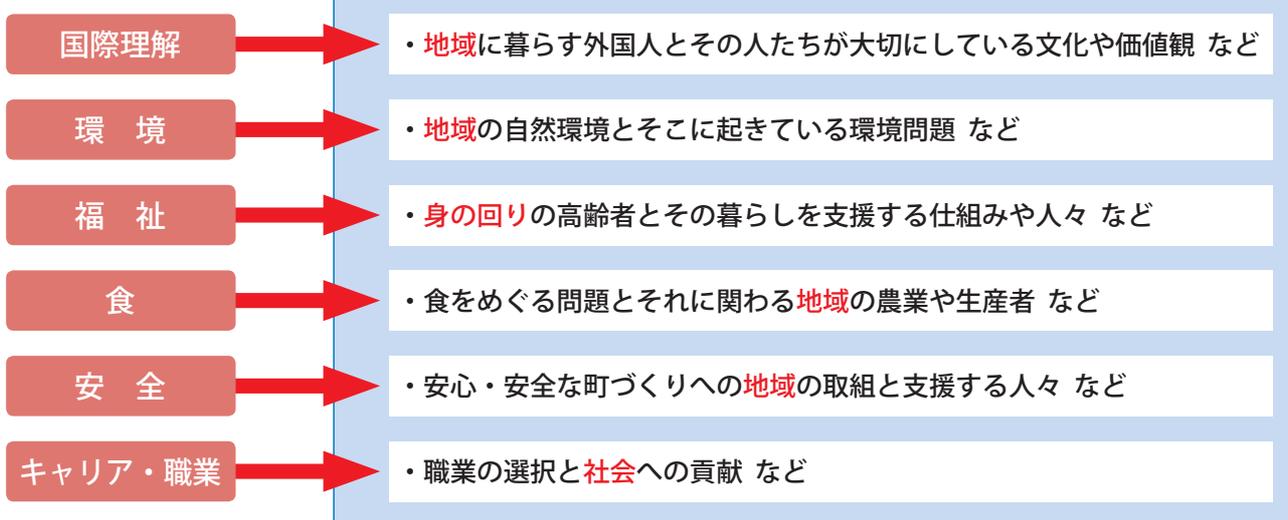


6 地域の人材や物的資源の活用

総合的な学習の時間では、教科等の枠を超えて、学校や地域のよさや特色に応じた探究課題を設定して、自己の生き方と関わらせながら、よりよい解決に向けて学習活動を展開することが重要です。積極的に地域の人材や物的資源を活用しましょう。

<現代的な課題の例>

<地域の人材や物的資源を有効活用する探究課題の例>



<地域の資源を有効に活用するための連携・協力>

日常的な関わり

担当者や組織の設置

適切な打合せの実施

学習成果の発信

【参考】本県の総合的な学習の時間に活用できる教育資源のリスト

◎多様で幅広い学習活動の実現のために、地域の資源を積極的に活用するとともに、必要な協力を求めましょう。
(活用可能な本県の事業リストは、こちらのURLからダウンロードしてください。↓)

http://www.nc.gunma-boe.gsn.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=1830

「はばたく群馬の指導プランⅡ」 地域の人材や物的資源を活用しよう 【県の事業一覧】

平成29年3月に改訂された学習指導要領では、学校における教育の質的向上を図るため、カリキュラム・マネジメントの一環として地域の人材や物的資源を積極的に活用することの重要性が述べられています。以下は、各教科・領域の授業で活用できそうな県の事業一覧です。自校の教育活動を進めるに当たり役立てることができそうなものがありましたら、積極的に活用してください。なお、詳細については、各課へ直接お問い合わせください。

事業名	概要	対象	担当課・係等	TEL/Eメール
1 出前なんでも講座	県職員が地域の団体や学校等に出向き、県等についての説明や情報提供を行います。講座のメニューは、各学校へ冊子を配布しているほか、県ホームページにも掲載しています。	講座により異なりますので、メニュー表(冊子)をご確認いただくか、担当課までお問い合わせください。	広報課 広聴・インターネット係	027-226-2176 kouhouka@pref.gunma.lg.jp
2 選挙出前授業	将来の有権者である小・中学生の選挙や政治に関する理解を深め、政治的判断能力の向上を図ることを目的とした授業を実施します。対象となる児童や生徒に応じて授業内容が選択できるよう、複数の授業モデルを提供しています。	小・中学生、 高校生、大学生	県選挙管理委員会	027-226-2218 senkan@pref.gunma.lg.jp
3 国際理解講座	県国際交流員(CIR)が外国の生活・文化などについて、小・中学生及び高校生等に広く紹介することにより、国際理解の促進を図ることを目的に実施。	小学生～高校生	外国人活躍推進課	027-226-3396 gaikokuka@pref.gunma.lg.jp

群馬県には、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」があり絹産業や絹文化

総合的な学習の時間

【参考】考えるための技法

以下のような様々なツールを活用することで、子供たちの思考が可視化され、協働的な学習がしやすくなるとともに、思考力、判断力、表現力等を育てることが期待されます。目的に応じて効果的に活用しましょう。

関連付ける：ウェビング

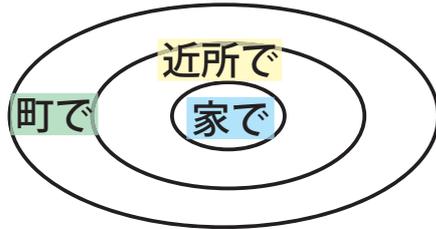
自分の町の特徴を見つけよう



1つのテーマを基にして、イメージを広げていくことで、テーマを多面的にとらえていくことができる。

広がりをとらえる：同心円チャート

〇〇についてできること



中心から外に向かって、地域の広がりや時間の流れを記入することで、広がりや変化をとらえることができる。

分類する：Yチャート

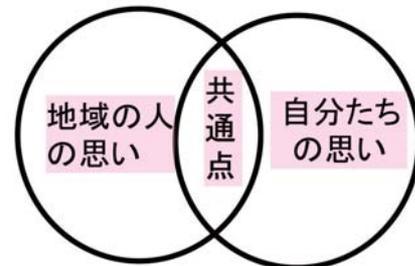
〇〇市の様子



多くの考えや情報を明確な視点で分類していくことができる。

比較する：ベン図

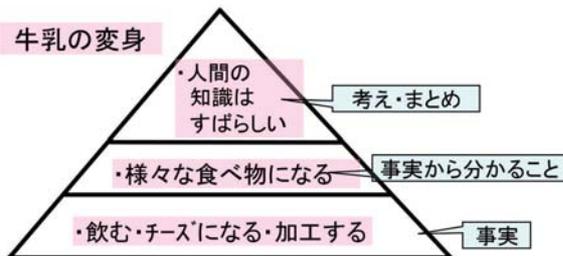
〇〇町の〇〇通りについて



異なる立場からの意見や情報を整理して、共通点や相違点を見つけられることができる。

構造化する：ピラミッドチャート

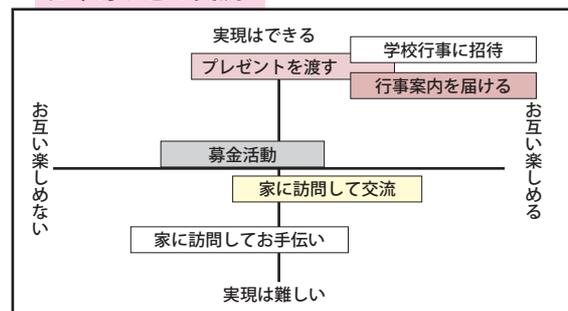
牛乳の変身



事実を基にして、段階的に自分の考え方をまとめていくことで、主張をかためていくことができる。

分類する：座標軸シート

お年寄りとの交流



さまざまな事柄を相互の関係性に気を付けながら整理、分類することができる。